

九州西部 地域連携で意見交換

大学・短大17校と行政、経済団体

長崎、佐賀、福岡各県の大学・短大計17校と行政、経済団体で組織する九州西部地域大学・短期大学連合産学官連携プラットフォーム(PF)の公開講座が29日、佐世保市椎木町の長崎短大であった。PFに先駆けて、2002年に九州8校で発足した「短期大学コンソーシアム九州」の成果を総括しながら、大学・短大と地域との連携について関係者が意見を交わした。

短期大学コンソーシアム九州は、入学者減など共通の課題に連携して対応することを目的に発足した。調査研究の共通システム導入や合同でのイベント開催などに取り組んでいる。パネル討論では短大や大学、行政の関係者が登壇。16年間の短大の連携については「学生を巻き込んだ点は大きい」「客観性のある成果検証を」などの意見が出た。前日本私立短期大学

佐世保で公開講座

協会長で、目白大名誉教授の佐藤弘毅氏は「16年の結束力を次の飛躍につなげてほしい」と要望。コーディネーターを務めた長崎短大の安部恵美子学長は「教育の質を高め、短大としてどう地域に貢献するか考える必要がある」と述べた。公開講座はPF短大系ワーキンググループが主催。大学や短大の関係者約150人が出席した。(後藤洋平)



短大・大学と地域との連携について意見を述べる登壇者。＝佐世保市、長崎短大

佐世保の桑木野さん 最優秀

マリンスポーツや港の風景など、県内の海をテーマにした「四季の海の写真コンテスト」の最優秀賞には同市鹿子前町の桑木野勝義さん(80)が輝いた。応募作品約90点は佐世保市

アスファルト道路 工学学ぶ

福江中2年生 職場体験



材料による水の通しやすさの違いを

県アスファルト合材協会(松川広紀会長)は26日、道路舗装工事などを手掛ける五島市大円寺町の五島技建工業(今村伊久雄代表)に同市立福江中の生徒を招き、工場見学会を開いた。生活に不可欠な道路建設の仕事に理解を深めてもらう目的。職場体験学習で参加した2年生36人が、道路が完成するまでの一連の工程を学んだ。

員が完成したの路面を舗装近で見たり、たりした。同朗さん(13)は路には手間がと分かった。を感じた」と

車道や駐車場などを舗装する「アスファルト合材」は、砕いた石や砂などを石油製品のアスファルトと混ぜ合わせたもの。同社の担当者が、合材に混ぜる材料の大小によって排水性や強度が変わることを説明し、生徒は実際に水をかけて確かめていた。「プラント」と呼ばれる巨大な機械で石やアスファルトを混ぜる工程も見学。生徒はその後、同社の従業員

地域課題解決策

本年度の宮原地区の水田に感謝する神がかった。精米1升(約1

「立派な米 宮中献穀米

松浦高、泉立松浦高(311人)と、教育活動「ま地域課題の解

海のはらりしや楽しさを広く知ってもらおうと、NPO法人佐世保市海洋スポーツ協会(福田俊郎会長)が毎年開催。作品を掲載したカレンダーも作製し、関係機関に配布する。